

研究主題「なぜ美術を学ぶのか」

～生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる中学校美術教育の在り方について～

I 本研究会の概要

本会は東京都中学校美術教育研究会の研究並びに会員相互の親睦を図ることを目的とし、東京都中学校各地区美術教育研究部を母体とし、中学校美術教育に関係ある教職員を会員として構成する。

【専門部】 教科研究部・広報部・行事部（休部）

【事業】 ①美術教育に関する調査研究ならびにその発表

②協議会、講習会、展覧会、視察、見学、研究事業

③意見の公表ならびに建議

④会員相互の親睦

⑤その他本会の目的達成に必要な事業

II 本研究会の活動方針

【美術科教員相互の連携を図り、授業力を向上するための研修を行う】

少子化により学校規模が縮小し、美術科教員が1名の学校や、専任がおらず講師のみの中学校が増えています。各区市町村の美術研究会とともに本会が担うべき大きな役割は、美術科教員相互の連携を図り、教科指導の専門性を高める学びの場を提供することであると思います。夏季教科研修会等を通じて優れた実践や新たな視点について情報を共有し、若手教員に対しては、ベテラン教員がこれまで培ってきた指導方法や題材の工夫を伝えるなど教育資源を次代へつなぎ、美術科授業の質の安定と一層の向上を図る取組を推進しています。

【中学校美術教育についての実践的な研究を行い、成果を発信する】

東京都中学校美術教育研究会第3ブロック大会（杉並区・練馬区・中野区）を杉並区で開催します。美術科授業の工夫・改善について、研究成果を発表します。

【関係団体と連携し、広く美術教育の充実・発展に寄与する】

造形美術関連の諸団体と連携し活動を行います。近年は、オンラインによる会議や研究会への参加が多くなっていますが、積極的な情報連携等を通じて地域・校種を超えた美術教育の充実・発展に努めます。

III 研究の目的

中学校美術科において、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習活動の質を向上させるためには、造形的な見方、考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させて学習を充実させることで、美術を学ぶことに対する必要性を実感し、目的意識を高めるなどの「主体的な学び」の視点が大切です。さらに、自己との対話を深めることや、表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりすることなどの「対話的な学び」の視点も重要です。今年度の活動にあたっては、これらの視点に着目し、生徒の「深い学び」につながる中学校美術教育の在り方について研究・研修を推進します。

IV 令和5年度の活動

5月16日	令和5年度東京都中学校美術教育研究会総会・研修会 杉並区立泉南中学校
7月31日	夏季研修① 美術館研修（対話による鑑賞プログラム） 国立西洋美術館
8月4日	夏季研修② 作品持ち寄り研修 杉並区立泉南中学校
11月17日	第62回関東甲信越静地区造形教育研究大会埼玉大会 川口総合文化センターリリア
12月26日	第1回都中美校長・副校長研修会、教科研究部研修会 中野区立南中野中学校
2月7日	第40回東京都中学校美術教育研究会第3ブロック大会 杉並区立泉南中学校
3月26日	第2回都中美校長・副校長研修会、第2回教科研究部研修会 中野区立南中野中学校

V 研究・研修の取組内容

夏季研修① 美術館研修 対話による鑑賞プログラム

国立西洋美術館の常設作品を活用した対話による鑑賞を体験し、グループ協議を行い、実際に対話による鑑賞プログラムを実践しました。

参加者は対話型鑑賞の面白さを味わい、ファッションリテーターと鑑賞者が変わることで、どのようなギャラリートークになるのか、グループで互いに披露し合い、鑑賞者との対話で作品の見方・考え方を深めました。限られた時間でのギャラリートークは、大いに盛り上がりました。



参加者からは、「ファッションリテーターの気持ちでは合いを進めていく必要がある。」「生徒の発言から授業が発展することがよく分かった。」「情報は小出しにエッセンスを残していく感じがよい。」「発問の工夫を行わなくてはならない。」「対話を楽しむだけでなく、それを通して次の作品づくりにつなげる。」「想定外の質問があった場合にどうすればよいか。」「話の進み方で、トーカー（話し手）のスキルが分かってしまう。」「トーカーの引き出しの重要性を感じた。」「作品を見る時間を長く確保する。」「生徒の実体を見極め、変容をどう見取り評価に結び付け、評価材料をいかに集めるか。」「言語化が苦手な生徒へワークシートを準備する。」など様々な意見があり、鑑賞指導について研修を深めました。

夏季研修② 作品持ち寄り研修

参加した先生方は、自身が指導し制作させた生徒作品及び題材のねらい等が分かる説明用紙、ワークシート、略案を持ち寄って、「学習指導要領と三観点での評価」の視点で、小グループでの実践発表と協議を行いました。各々の実践発表を熱心に聞き入り、教材研究に活かしました。最後に、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 平田 朝一 先生による講義を受け、美術教育における我々の指導の本質を再確認することができました。



VI 研究大会（予定）

令和5年度 第40回 東京都中学校美術教育研究会
第3ブロック大会（杉並・中野・練馬）大会

日時 令和6年2月7日（水）13:30～16:30

会場 杉並区立泉南中学校

大会全体テーマ 「なぜ、美術を学ぶのか」

- 分科会テーマ
- 1 「鑑賞から表現へ」
 - 2 「生活や社会の中の美術」
 - 3 「主題を生み出すことについて」

指導・講評

文化庁参事官(芸術文化担当)付教科調査官

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

平田 朝一 先生

<令和5年度連絡先>

団体名		東京都中学校美術教育研究会	
代表者	所属	江戸川区立春江中学校	
	職 氏名	校長 横枕 耕史	
	連絡先	03-3678-9241	
事務局	所属	中野区立南中野中学校	
	職 氏名	副校長 内田 善人	
	連絡先	03-3381-7277	
団体ホームページ	URL	二次元コード	
	http://totyubi.sakura.ne.jp/		